

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 16 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370453

研究課題名(和文) 消滅の危機に瀕する古アジア諸語の再活性化のための辞書編纂と語彙データベース構築

研究課題名(英文) Compiling a Dictionary and Creating a Database for the Revitalization of Endangered Paleosiberian Languages

研究代表者

永山 ゆかり (Nagayama, Yukari)

北海道大学・文学研究科・助教

研究者番号：20419211

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、古アジア諸語のアリュートル語およびコリマ・ユカギール語について、言語再活性化のための基礎資料の拡充を進め、テキストおよび語彙資料の収集・分析を進めることができた。また、ロシア地域で話される危機言語の辞書作成のための方法論の研究を通して得られた知見をもとに、用例つき語彙データベースを作成することができた。これらの成果に基づき、アリュートル語については、現地コミュニティでの使用にかなうよう、用例およびロシア語対訳つきの辞書を刊行した。また整備したテキスト資料の分析を通して文法研究を進め、所有構造、否定、名詞化等に関する成果をまとめ、学会や学術雑誌等で発表した。

研究成果の概要(英文)：In this project, we expanded and analyzed primary data of two endangered Paleosiberian languages, Alutor and Kolyma Yukaghir, with the purpose both of linguistic research and language revitalization. For Alutor, we conducted field research in Kamchatka of East Siberia and recorded audio and video materials. We also studied the methodology for compiling a dictionary of an endangered language in Siberia. The outcome of the project includes a database of Alutor texts and vocabulary, a Nymylan-Russian dictionary with examples, Alutor and Kolyma Yukaghir texts with Russian translation, a set of research papers and presentations on some grammatical topics, such as possessive construction, negation, and nominalization.

研究分野：言語学

キーワード：言語学 記述言語学 古アジア諸語 ロシア シベリア 少数言語 ドキュメンテーション 辞書

1. 研究開始当初の背景

古アジア諸語はシベリア地域で話されるおおよそ 11 言語からなる言語群で、その大部分が消滅の危機に瀕している少数言語である。シベリアという地域の特性上、1990 年代以前はロシア国外の研究者が調査をおこなうことが困難であり、他の地域に比べ研究が遅れている。以上を踏まえた上で本研究の背景は以下の 3 点のようにまとめられる。

(1) 調査の緊急性

本研究で対象としたアリュートル語ならびにコリマ・ユカギール語は話し手が少なく、極めて危機的な状況にあるにもかかわらず、記述研究ならびに再活性化に必要な基礎資料が不足しているため、調査が可能ならうちにできるだけ多くの資料を収集・分析し、成果を公開する必要がある。

(2) 資料の重要性

記述研究はもとより、言語の再活性化のためには、音声・映像資料および文字資料が必要とされる。文字資料としては、教科書(文法書)、民話テキスト集とならんで、辞書が基本的かつ不可欠である。

(3) これまでの研究の概要

アリュートル語の辞書はこれまで出版されておらず、またコリマ・ユカギール語に関しても学習者向けの簡易な辞書があるにすぎず、話し手の実用に耐える辞書は出版されていない。研究代表者はロシア語訳を付した語彙リスト(収録語数約 3000 語、用例なし)(Nagayama 2003)、分担者は既存のテキスト資料の語彙を集積した日本語訳を付した語彙集(収録語数訳 1200 語、用例つき)(長崎・遠藤 2004)の作成をとおして、言語最活性化と学術研究の両方の利用を視野に入れた辞書編纂の準備を進めてきた。

2. 研究の目的

(1) 資料の拡充

これまでに収集された民話などのさまざまな談話テキストを辞書作成に利用できるようなデータベース化するとともに、特にアリュートル語については、民俗語彙(民族誌的な知識を前提とする動植物や民具名称)の調査や品詞情報の洗いなおしを目的とするフィールド調査を行ないながら、資料を拡充してゆく。

(2) 辞書作成の方法論の研究

コミュニティでの利用を想定した項目と用例の選定、どのような文法情報を辞書に盛り込むかといった内容に関する点、辞書づくりに関わるコンピュータ・ソフトの有効利用といった技術的な点に関する研究を進める。

(1)、(2) に関し、明らかになった事項については、学会発表や論文の形で成果を公開する。

(3) 再活性化のための辞書の編纂

話し手やその子孫が言語の再活性化に利用しうよう、ロシア語訳および用例付きの辞書を編纂・出版する。

(4) 語彙データベース作成

コンピュータ上で利用できるような語彙データベースを作成し、印刷用に辞書としての体裁を整えた上で PDF などの電子形式で公開する。

3. 研究の方法

本研究では消滅の危機に瀕するアリュートル語およびコリマ・ユカギール語について(1)各言語の資料の拡充、(2)辞書作成の方法論の研究、(3)再活性化のための用例付き辞書の編纂、(4)語彙データベース構築の 4 点を目的として研究を進める。(1)についてはフィールド調査ならびに文献調査により、(2)(3)(4)については他言語の事例研究および研究者間の意見・情報交換により達成する。研究期間中は毎年 1 度の研究打合せをおこない、必要に応じてネットワーク上の情報共有により研究進捗状況の報告と意見交換をおこなう。また、研究成果は学会等での研究発表、学会誌などへの論文投稿の形で発表するほか、最終的な研究成果として、各言語について用例付きの語彙データベースを構築・公開し、アリュートル語についてはロシア語対訳付きの辞書を刊行する。

4. 研究成果

(1) 平成 25 年度

これまでに本研究の代表者永山ゆかり(北海道大学)および分担者長崎郁(国立国語研究所)が収集した各言語のテキスト資料および既刊のテキスト資料の整理・分析をおこなった。具体的には語彙リストの作成のための準備として、コンピュータへの入力終了したテキストの一部に、品詞などの文法情報や英訳・露訳の付与をおこなった。現地調査はアリュートル語についてのみ実施した。調査地はロシア連邦カムチャッカ地方のペトロパブロフスク・カムチャツキー市および旧コリヤーク自治管区オリュートル地区のチリチキ村一円およびハイリノ村で、約 1.5 ヶ月間にわたりアリュートル語における各動詞語彙の品詞情報の再調査、ならびに民俗語彙の収集、過去に収集した音声資料の文字化をおこなった。辞書作成の方法論の研究として、辞書作成に関わるコンピュータ・ソフト(Field Works)の有効利用や、それにとまなうテキスト処理の方法といった技術的な点についても研究を進めた。また分析したテキスト資料をもとにそれぞれの言語の文法研究を進め、その成果を学会発表〔永山 5 件、長崎 1 件〕ならびに論文〔永山 2 件、長崎 3 件〕として公開した。またテキスト資料の分析・調査を通して得ら

れた成果を図書(6)として刊行した。

(2) 平成 26 年度

引き続き、資料拡充のための既存のテキスト資料の整理・分析をおこなった。本研究ではテキスト資料ならびに語彙資料を整理・分析し、露訳を付することが作業の大部分を占めるが、平成 26 年度はこれまでに翻訳および校正の終了したテキストの露訳を見直し、その一部をロシア語対訳付きのテキスト集として出版した〔図書(3)、(4)〕ほか、アリュートル語のテキスト資料調査で得られた成果を分担執筆の形で刊行した〔図書(5)〕。現地調査については、アリュートル語についてのみ実施した。ロシア連邦カムチャッカ地方からアリュートル語の母語話者を日本へ招へいし、過去に収集した音声資料の分析ならびにテキスト資料出版のための再確認作業をおこなった。また、辞書に記載すべき項目ならびに用例の選定基準について、すべての動詞に用例をつけるという基本方針を決定した。また、時間と予算の制限から英訳の付与を断念して露訳の整備に重点を置くことに決定した。さらに、ロシアにおける少数言語の辞書作成の実績がある研究者の意見を参考に、辞書作成に関わる共通の技術上の問題点について整理した。分析したテキスト資料をもとにそれぞれの言語にかんする文法研究を進め、その成果を国際学会等での口頭発表〔永山 5 件、長崎 5 件〕ならびに論文〔永山 2 件、長崎 3 件〕として公開した。

(3) 平成 27 年度

アリュートル語、コリマ・ユカギール語に加え、セリクープ語に関する調査研究をおこなった。引き続き、これまでに収集した各言語のテキスト資料および語彙資料について整理・分析を進めたほか、電子化の進んでいなかった資料をデータベース化した。現地調査はアリュートル語についてのみ実施した。ロシア連邦カムチャッカ地方パラナ村において、永山が過去に収集した音声資料の分析ならびに新たなテキスト資料を収集した。新たに調査対象としたセリクープ語について、長崎が基礎語彙の整理と分析を行なった。また、動植物名について現地生物学者らの協力を得て、学名の確認を行なった。これにより得られた成果の一部は、北海道大学大学院文学研究科の助成を得て、〔図書(2)〕として刊行した。辞書作成の方法論については、技術的な問題や編集方針に関して議論をおこなったほか、論文やデータベース等から事例研究をおこなった。分析した資料をもとにそれぞれの言語に関する文法研究を進め、その成果を学会等での口頭発表〔永山 2 件、長崎 2 件〕ならびに論文〔長崎 1 件〕として公開した。

(4) 平成 28 年度

アリュートル語、コリマ・ユカギール語、

セリクープ語に関する調査研究をおこない、引き続き、既存のテキスト・語彙資料の整理・分析を進めた。言語調査はアリュートル語についてのみ実施し、ロシア連邦カムチャッカ地方からアリュートル語の母語話者を招へいし、辞書編纂のための最終確認作業をおこなった。具体的には、データベースに保存されている語彙の中から出版向けに抽出した約 5300 語につき、発音・表記ならびに用法を確認し、必要に応じて新たな用例を収集して採録した。辞書作成の方法論については、ロシアにおける少数言語の辞書作成の事例研究にもとづき、また辞書作成の実績がある研究者らと相談し、辞書の構成についての方針を決定した。これらの調査・研究により得られた成果は図書(1)として出版した。

また、分析した資料をもとにそれぞれの言語に関する文法研究を進め、その成果を学会〔永山 3 件、長崎 1 件〕および論文〔永山 1 件、長崎 1 件〕として発表した。ほかに、印刷中の論文が 1 件ある。また「北方の言語と文化にかんするシンポジウム:北方の人と動物」を開催し、永山、長崎がそれぞれ口頭発表をおこなった際に、藤代節(神戸市看護大学)をコメンテーターとして招へいしたほか、研究交流をおこなった

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 14 件)

(1) NAGAYAMA Yukari, Dialectal variations of Koryak and Alutor languages, *Acta linguistica Petropolitana* 13, *Festschrift in honour of 80th anniversary of Alexandr P. Volodin*, 査読有, (in printing)

(2) NAGAYAMA Yukari, Nominalization in Alutor. In: Gruzdeva, Ekaterina and Juha Janhunen (eds.) *Crosslinguistics and Linguistic Crossings in Northeast Asia: Papers on the Languages of Sakhalin and Adjacent Regions (Studia Orientalia, vol. 117)*, 査読有, 2016, pp. 119-136

(3) NAGASAKI Iku, Relative clauses and nominalizations in Kolyma Yukaghir, In: Gruzdeva, Ekaterina and Juha Janhunen (eds.) *Crosslinguistics and Linguistic Crossings in Northeast Asia: Papers on the Languages of Sakhalin and Adjacent Regions (Studia Orientalia, vol. 117)*, 査読有, 2016, pp. 137-151,

(4) 長崎郁, コリマ・ユカギール語の非定形節における能格性、北方言語研究、査読有、第 6 号、2016、pp. 25-42、<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace>

/handle/2115/60790

(5) 長崎郁、北東ユーラシア諸言語における否定構造、*北方言語研究*、査読有、第5号、2015、pp. 1-4、
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/58321>

(6) 長崎郁、コリマ・ユカギール語における否定と他動性、*北方言語研究*、査読有、No. 5、2015、pp. 15-24、
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/58324>

(7) 永山ゆかり、アリュートル語における肯否の非対称性、*北方言語研究*、査読有、第5号、2015、pp. 25-37、
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/58325>

(8) NAGASAKI Iku, On Kolyma Yukaghir proprietive verbs, *Tomsk Journal Linguistics and Anthropology*, 査読有, Issue 1(3), 2014, pp. 15-22,
http://ling.tspu.edu.ru/en/archive.html?year=2014&issue=1&article_id=4085

(9) NAGAYAMA Yukari, Two Proprietary Forms in Alutor, *Tomsk Journal Linguistics and Anthropology*, 査読有, 2014, Issue 1(3), pp. 43-55,
http://ling.tspu.edu.ru/en/archive.html?year=2014&issue=1&article_id=4088

(10) 永山ゆかり、アリュートル語の名詞項標示、*北方言語研究*、査読有、第4号、2014、pp. 5-17、
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/55101>

(11) 長崎郁、コリマ・ユカギール語における名詞項標示、*北方言語研究*、査読有、第4号、2014、pp. 19-31、
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/55102>

(12) NAGAYAMA Yukari, Verbal Charms of the Alutor in Kamchatka: Tradition, Practice, and Transmission, *Journal of the Center for Northern Humanities*, 査読有, 2014, No. 7, pp. 95-108,
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/55040?locale=ja&lang=ja>

(13) NAGASAKI Iku, Relative Clauses in Kolyma Yukaghir, *Asian and African Languages and Linguistics*, 査読有, Vol. 8, 2014, pp. 79-98,
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/75671>

(14) 長崎郁、コリマ・ユカギールの民話テキスト(5): A. V. スレプツォワの「水に沈んだ家族」、*千葉大学ユーラシア言語文化論集*、査読無、第15号、2013、pp. 219-232、
<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/meta-bin/mt-pdetail.cgi?cd=00117444>

〔学会発表〕(計 24件)

(1) NAGAYAMA Yukari, Problems in developing an orthography for a minority language in Kamchatka, “Aspects of linguistic fieldwork among minorities,” Hokkaido University - University of Helsinki Joint Seminar, 2017年3月3日、ヘルシンキ(フィンランド)

(2) 永山ゆかり、「語形成から見たアリュートルの動物観」、*北方の言語と文化にかんするシンポジウム2017「北方の人と動物」*、2017年1月28日、北海道大学(北海道・札幌市)

(3) 長崎郁、「ユカギール語資料に見られる動物のイメージ」、*北方の言語と文化にかんするシンポジウム2017「北方の人と動物」*、2017年1月28日、北海道大学(北海道・札幌市)

(4) NAGAYAMA Yukari, Folklore as Language and Cultural Heritage: A Case of the Indigenous Peoples of Kamchatka [in Russian], 2nd International Conference “Folklore of Paleo-Asiatic Peoples,” 2016年11月23日、ヤクーツク(ロシア)

(5) NAGAYAMA Yukari, Rethinking of the Strategies for Relative Clauses in Alutor, The Regional Conference “The Languages of the Peoples of Siberia and the marginal areas 2015,” 2015年10月8日、ノボシビルスク(ロシア)

(6) NAGASAKI Iku, The structural properties of Kolyma Yukaghir’s kakarimusubi-like construction, International Workshop: Kakarimusubi from a Comparative Perspective, 2015年9月5日、国立国語研究所(東京都立川市)

(7) NAGASAKI Iku, Ergativity in Kolyma Yukaghir nominalizations, International Conference: Northeast Asia and the North Pacific as a linguistic area, 2015年8月20日、北海道大学(北海道・札幌市)

(8) NAGAYAMA Yukari, Cultural and Language Heritage of Indigenous peoples of Kamchatka [in Russian], Discussion with International Scholars on the Preservation of the Languages and Cultures

of Indigenous Kamchatkans, 2015年8月7日、パラナ(ロシア)

(9) 長崎郁、「V. I. ヨヘリソンのユカギール語テキスト」、北方の言語と文化にかんするシンポジウム2015、2015年1月24日、北海道大学(北海道・札幌市)

(10) 永山ゆかり、「クラシェニンニコフのコリヤーク語資料」、北方の言語と文化にかんするシンポジウム2015、2015年1月24日、北海道大学(北海道・札幌市)

(11) NAGASAKI Iku, Nominalization and related functions in Kolyma Yukaghir, HALS Field Seminar 2 “Crosslinguistics and Linguistic Crossings in Northeast Asia,” 2014年11月29日、ヘルシンキ(フィンランド)

(12) NAGAYAMA Yukari, Nominalization in Alutor, HALS Field Seminar 2 “Crosslinguistics and Linguistic Crossings in Northeast Asia,” 2014年11月29日、ヘルシンキ(フィンランド)

(13) 長崎郁、「コリマ・ユカギール語における否定と他動性」、日本言語学会第149回大会ワークショップ「北東ユーラシア諸言語における否定構造」、2014年11月16日、愛媛大学(愛媛県・松山市)

(14) 永山ゆかり、「アリュートル語における肯否の非対称性」、日本言語学会第149回大会ワークショップ「北東ユーラシア諸言語における否定構造」、2014年11月16日、愛媛大学(愛媛県・松山市)

(15) NAGASAKI Iku, Relativization and nominalization functions of JE verb forms in Kolyma Yukaghir, System Changes in the Languages of Russia, 2014年10月17日、サンクトペテルブルグ(ロシア)

(16) NAGAYAMA Yukari, Direct Object Incorporation in Alutor in Comparison with Chukchi and Koryak, System Changes in the Languages of Russia, 2014年10月16日、サンクトペテルブルグ(ロシア)

(17) 長崎郁、「ユカギール語とユカギールの人々」、講演会「言語で巡るシベリアの旅：北方の人々のことばと暮らし」、2014年7月5日、新潟大学(新潟県・新潟市)

(18) 永山ゆかり、「アリュートル語とアリュートルの人々」、講演会「言語で巡るシベリアの旅：北方の人々のことばと暮らし」、2014年7月5日、新潟大学(新潟県・新潟市)

(19) NAGAYAMA Yukari, Polysynthesis in Alutor, International Symposium on Polysynthesis in the World's Languages National Institute for Japanese Language and Linguistics, 2014年2月21日、国立国語研究所(東京都・立川市)

(20) NAGAYAMA Yukari, Indigenous Weather Knowledge in Kamchatka, 2nd International Conference on “Global Warming and the Human-Nature Dimension in Siberia: Social Adaptation to the Changes of the Terrestrial Ecosystem, with an Emphasis on Water Environments,” 2013年10月9日、ヤクーツク(ロシア)

(21) 永山ゆかり、「アリュートル人の語りに見る社会主義体験」、北方研究教育センターフォーラム「それぞれのロシア：20世紀北東アジアに生きた人々の語りと記録」、2013年7月6日、北海道大学(北海道・札幌市)

(22) 長崎郁、「コリマ・ユカギール語における名詞項標示」、日本言語学会第146回大会ワークショップ「ユーラシア北東部諸言語の名詞項標示」、2013年6月15日、茨城大学(茨城県・水戸市)

(23) 永山ゆかり、「アリュートル語の自他両用動詞における名詞項標示」、日本言語学会第146回大会ワークショップ「ユーラシア北東部諸言語の名詞項標示」、2013年6月15日、茨城大学(茨城県・水戸市)

(24) NAGAYAMA Yukari, Protective and Harmful Charms of Native People in Kamchatka: Tradition, Practice, and Transmission, The 16th Congress of the International Society for Folk Narrative Research (ISFNR), 2013年6月26日、ピリニウス(リトアニア)

[図書] (計6件)

(1) NAGAYAMA Yukari (ed), Compiled by NAGAYAMA Yukari, NUTAYULGIN Vladimir, CHECHULINA Lidia, The working group of the Grant-in-Aid for Scientific Research (C) “Compiling a Dictionary and Creating a Database for the Revitalization of Endangered Paleosiberian Languages,” Nymylan-Russian Dictionary: Alutor dialect, Part 1 [in Russian], 2017年、143ページ
https://www.researchgate.net/publication/315696729_Nymylansko-russkij_clovar_alutorskij_dialekt_Cast_1_Nymylan-Russian_Dictionary_Alutor_dialect_Part_1_Materials_of_Siberian_Languages_3

(2) 永山ゆかり・長崎郁編、東海大学出版部、『シベリア先住民の食卓：食べものから見たシベリア先住民の暮らし』、2016年、206ページ

(3) NAGAYAMA Yukari, The working group of the Grant-in-Aid for Scientific Research (B) “A Study of Digital Archive Environment and Language Documentation for Minority Languages in Noreast Eurasia,” Materials of the Language of Nymylan-Alutor [in Russian], 2015年、94ページ

https://www.researchgate.net/publication/273886703_Materialy_po_azyku_nymylanov-alutorcev_Materials_of_the_Language_of_Nymylan-Alutor_Materials_of_Siberian_Languages_2

(4) NAGASAKI Iku, The working group of the Grant-in-Aid for Scientific Research (B) “A Study of Digital Archive Environment and Language Documentation for Minority Languages in Noreast Eurasia,” Materials of the Language of Kolyma Yukaghir [in Russian], 2015年、126ページ

(5) 永山ゆかり (分担執筆)、京都大学学術出版会、「チュクチ・カムチャツカ諸語のフォークロアにみる自然観」、檜山哲哉・藤原潤子 (編) 『シベリア：温暖化する極北の水環境と社会』、2015年、511ページ (執筆は277-329ページ)

(6) 山田仁史・永山ゆかり・藤原潤子編、勉強出版、『水・雪・氷のフォークロア』、2014年、345ページ

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

永山 ゆかり (NAGAYAMA, Yukari)
北海道大学・大学院文学研究科・助教
研究者番号：20419211

(2) 研究分担者

長崎 郁 (NAGASAKI, Iku)
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・言語対照研究系・プロジェクトPDフェロー
研究者番号：70401445

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()